

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス コレクト太宰府教室			
○保護者評価実施期間	令和8年3月21日		～	令和8年4月11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数)	23名
○従業者評価実施期間	令和8年3月21日		～	令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月22日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	前身の事業所の時からすると放課後等デイサービスとして11年目になり、長く子どもたちを見ている経験から、学校のことや思春期の行動についてなど、保護者にいろいろなアドバイスができる。	中高生の利用者が半分以上になり、将来を見据え、就労を意識した取り組みをしており、挨拶や身だしなみ、言葉使い、またお金の使い方などの指導をしている。	就労に向けて、手先の訓練になる作業をたくさんそろえていく。巧緻性を養い、集中して正確に、根気強く頑張る力を身につけるよう支援している。
2	小1から高3までの子どもが集団活動である運動のトレーニングと一緒に取り組んでいる。代々大きい子が小さい子の世話をしてくれるようになり、小さい子は大きい子の真似をして出来ることが増える。	お出かけの時に小さい子と手をつないでもらったり、高学年から、何か自分でできることの役割を担ってもらい、感謝される喜びを知り、自己肯定感を高めていけるよう支援している。	
3	職員間でコミュニケーションが良くとれているため、子ども達にとって最善の支援を共通理解を持って行うことができていると思う。ヒヤリハットの事案もすぐに次の改善につなげることができている。	送迎前、送迎後の業務終わりの時に、子どもについて気付いたことや気になることは、すぐに報告しあっている。	職員にとっても、わからないことはすぐに聞いたり、相談しやすい環境を整えている。またそれぞれの家庭の事情による休みも協力し合って取れるようにしており、長く勤めている職員が多い。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	特別支援学校の児童が多いため、地域小学校の児童が学年が上がるにつれ、だんだん活動が合わなくなってくる可能性がある。	電話での問い合わせ時に、利用者の学校の子の割合を聞かれることがある。また、いろいろな放課後等デイサービスがある中で、子どもにとっても合う合わないがあるため、事前に説明したり実際に見学してもらい、保護者や児童に判断してもらっている。	地域小学校や地域中学校から、特別支援学校に進む場合、すでに友達がいたり、支援学校の様子がわかるという利点もある。特別支援学校の子と地域学校の子で、いい影響を与え合っていると思う。
2	職員が女性ばかりで、また年齢も高めのため、強度行動障害のある、高学年の子の途中からの利用は難しい。	問い合わせ時に、お子さんの様子をお聞きし、事業所の状況もご説明して、希望があれば、実際に見学をしていただき、判断していただく。	
3	事業所の建物がバリアフリーではなく部屋数も余裕がない為、重度心身障害児の児童は受け入れができない。	賃貸の住宅のため、改築はできない。	